

第4学年 図画工作科学習指導案

は組 男子19名 女子19名 計38名
指導者 濱崎 昇平

1 題材 ドリームボックス

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は、自分の行ってみたい夢の世界を、楽しく想像しながら、構図や色、形を工夫して空き箱の中に立体的に表す題材である。

この期の子どもたちは、空想の世界を描いたり、冒険心に富んだ表現を試みたりするなど、想像力を働かせることを楽しもうとする意欲が高まってきている。また、これまでに子どもたちは、自分のつくりたいものを、自分の思いに合わせて表現する楽しさを味わってきている。そして、つくりたいもののアイデアスケッチをかいたり、構想を練ったりして、自分なりの見通しをもって、製作できるようになってきている。さらに、友達の発想を取り入れたり、教え合ったりしながら自分の表現に生かす姿も見られる。

そこで、夢の世界を想像し、自分の思いに合わせた構図や色、形を工夫していくことは、自分なりの夢の世界の様子を奥行きのある立体的な表現にしていきたいという意欲を高めていくことができる。また、表したい夢の世界を、これまで経験した立体表現の方法を生かしながら構想を練り、自分の思いに合った構図や色、形を工夫していくことで、子どもたちは、つくりだす力を伸ばしていくことができる。そして、見るポイントを基に、お互いの作品を鑑賞し、友達の作品のよさや課題について話し合う活動を通して、お互いのイメージや構図、色、形などの工夫の仕方の違いに気付く、感じ取る力を伸ばしていくことができる。さらに、自分の表したい思いにあった形や色になるように、用いる材料について考えたり、カッターナイフや化学接着剤などの用具を適切に扱ったりすることで、知識・理解、技能を高めていくことができる。

このように、自分なりの発想を基に、表現の仕方を練りながら、いろいろな材料を使って表現していく活動は、第4学年の題材「思いをカードにのせて」で、伝えたい思いに合った形や色、飛び出し方を工夫してカードを製作する題材へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本題材で扱う空き箱は厚紙でできており、容易にカッターナイフで切り抜くことができ、つぶれにくい丈夫さがある。また、多様な材料を適切な接着剤を用いて貼り付けることができるため、豊かな表現をすることもできる。さらに、自分のつくった部品を空き箱の中の空間に試行錯誤しながら構成する楽しさがある。そのため、子どもたちは、空き箱の特徴を生かしながら、行ってみたい夢の世界の構想を練ったり、構図や色、形などを工夫したりして、夢の世界を立体的になるように表現したいという意欲をもって取り組むことができる。

そこで、夢の世界を豊かに構想していくためには、自分の思いを大切にしながらアイデアスケッチをかいたり、箱の中の空間に、近景、中景、遠景に気を付けながら、登場人物などの部品を試しにいろいろ配置したりする場を設定する必要がある。次に、表現の過程で、友達と作品を紹介し合う際に、お互いの発想や工夫のよさを認め合い、自分の表現に生かすことが自分の表現をより豊かにすることに気付かせる。さらに、自分の思いに合った世界が表現できるように、材料の特徴を考えながら、用途に応じて適切にカッターナイフや化学接着剤を用いることができるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは自分の表したい夢の世界を、空き箱などの材料の特徴を生かして、立体的に見えるように構成を考え、知識や技能を十分に発揮しながら製作することで、意欲的に表現していく楽しさや喜びを味わい、創造的に表現していく能力や態度を培うことができる。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、空き箱を使って立体的に表現をすることについて、これまでの経験を通してほとんどの子どもたちが好きである。しかし、「好きではない」と答えた子どもが3名いる。(※1) その理由として、自分のつくりたいものを思ったように表現することができないということが挙げられている。その子どもは技能的な面での課題がある。そのため、用具の使い方について改めて確認をしたり、個別に指導をしたりして、自分の思いに合わせて表現することができるようにする。

自分のつくりたい夢の世界を発想することについては、13名の子どもたちがテーマを考えることができなかった。(※2) そのため、子どもたちがこれまで学習してきたテーマや読んできた物語の内容などを想起させたり、アイデアスケッチをしたりしてテーマについて十分考えられるようにする。

友達の作品を見ることと自分の作品を見せることでは好きではないと答えた子どもの人数に大きく差がある。(※3, 4) 自分の作品に自信がもてないまま製作していることがわかる。そのため、製作の途中で教師が賞賛したり、友達の作品のよさを見つけ合う活動を設定したりし、鑑賞のよさを実感しながら表現できるようにする。

のりと化学接着剤の使い分けについての理解ができていない子どもが4名いる。(※5) 前題材で学習した内容が十分に定着していないことが分かる。そのため、題材の導入で今までの学習経験を振り返らせながら、理解を深めて学習に取り組めるようにする。また、カッターナイフの使い方について、26名の子どもが適切に使うことができていない。(※6) カッターナイフを手前に倒して切ることや、曲線を切るときは紙を回すことを理解していないことが理由である。そのため、掲示資料を使っていつでも用具の使い方を確認できるようにする。

(4) 指導上の留意点

ア 夢の世界を箱の中に表すことに興味もてるように、導入時に参考作品を見せながら、自分の想像した世界を箱の中に立体的に表現することの楽しさを感じさせる。さらに、意欲を持って取り組めるように、表現の途中で鑑賞する場を設定し、自分の課題を解決する方法を見出すことができるようにする。

イ 自分の表したい夢の世界を豊かに発想できるように、これまで見たり、聞いたりしてきたことを想起させ、イメージマップの作成やアイデアスケッチをする場を設定する。さらに、アイデアスケッチを友達と練る場を設定し、より豊かな発想ができるようにする。また、立体感のある世界を構成できるように、参考作品を見せながら、奥行きのある構成と奥行きのない構成を比較させ、近景・中景・遠景のよさを生かしながら製作できるようにする。

ウ 友達の作品の表現のよさに気付くことができるために、見るポイントやイメージを基に友達の作品と自分の作品を見比べさせる。その際、具体的にどのように表現しているのかを話し合う活動を通して気付いたよさを参考にし、自分の作品を見つめ直すように助言する。

エ 自分の思いに合わせて製作できるように、カッターナイフの使い方や化学接着剤での接着の仕方について、いつでも振り返られるように資料を掲示しておく。

実態調査 4年は組38名(4月中旬実施)

- 1 空き箱を切ったり、空き箱に色紙を貼ったりして何か作品をつくることは好きですか。
好き(35名) 好きではない(3名)※1
(好きではない理由)
・立体なものをつくるのが苦手である
・思うようにつくることができない
- 2 自分のつくりたい夢の世界がすぐに思いつきませんか。
はい(25名) いいえ(13名)※2
- 3 空き箱に、行ってみたい夢の世界をつくらしたらどんな世界をつくりたいですか。
・魔法の世界
・雲の上の世界
・お菓子だらけの世界
- 4 友達の作品を見ることは好きですか。
好き(38名) 好きではない(0名)※3
- 5 友達に作品を見せることは好きですか。
好き(31名) 好きではない(7名)※4
(好きではない理由)
・自分の作品に自信がない
・恥ずかしい。
- 6 のりと化学接着剤の使い分けができますか。
はい(34名) いいえ(4名)※5
- 7 カッターナイフの適切な使い方について(実技)使える(12名) 使えない(26名)※6

3 目 標

- (1) 自分なりの夢の世界を楽しく想像し、どのような構図や色、形で表すかを考え、進んで製作することができる。
- (2) ○ 自分のイメージをもち、表したい様子が分かるように、立体的に見える構成について考え、構図や色、形などを工夫することができる。
○ 製作の途中で行う鑑賞活動を通して、自分や友達の商品のよさに気づき、自分の表現をより豊かにすることができる。
- (3) 自分の思いに合った世界が表現できるように、カッターナイフや化学接着剤などの用具を適切に使い、表現することができる。

4 指導計画 (全7時間)

過 程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
動機付け	1 自分の夢の世界を、空き箱の空間を生かしてつくることについて話し合う。	↑	○ 製作への意欲を喚起するために、参考作品を提示し、箱の中に想像の世界を表現することの楽しさについて話し合わせる。
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【見るポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物や周りのものの形や色、大きさ ・奥行き、重なり </div> <div style="font-size: 2em;">⇔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【イメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人は魚釣りをしている様子にしよう。 ・近景に海、中景に釣り人と魚、遠景に空を配置しよう。 </div> </div>		
発想	2 学習のめあてについて話し合う。	1	○ 夢の世界をつくりだしていくことに興味をもたせるために、行ってみたい夢の世界について考えさせ、発表させる。
	夢の世界を楽しく想像しながら、空き箱のよさを生かして立体的につくろう。		
	3 つくりたい夢の世界について考え、アイデアスケッチをする。		
表現	4 夢の世界をドリームボックスに表す。	↓	○ 見通しをもち、製作ができるようにイメージマップやアイデアスケッチをかかせる。また、そのアイデアスケッチを鑑賞する場を設定し、友達の意見を参考にして構想を練ることができるようにする。
	(1) 登場人物や周りのものをつくる。		
	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 100%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな世界をつくるか思い浮かばない。 ・人間より大きな魚を釣る場面を思い付いたぞ。 ・化学接着剤が手に付いてしまうな。 ・化学接着剤はヘラでのぼすと手を汚さずにすむな。 </div> </div>		
	(2) 箱の中を装飾する。		
	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 100%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・近景には草を、中景には釣り人と魚を、遠景には海を配置しよう。 ・部品と箱の両方に接着剤を塗るとうまくつくらな。 </div> </div>		
5 友達と作品について話し合う。			
鑑賞	6 話し合ったことを生かして、作品を仕上げる。	5 本時 第3時	○ 安全に製作に取り組み、また思いに合わせて製作できるように、掲示資料を使いながら用具の使い方を確認する。
	7 友達の思いや表現のよさを大切にしながら鑑賞する。		
鑑賞	7 友達の思いや表現のよさを大切にしながら鑑賞する。	↓	○ 自分の表現の課題を解決し、意欲的に製作を進めていくために、中間鑑賞会を設定する。
	自分の行ってみたい夢の世界をドリームボックスに表すことができたよ。		
評価		1	○ 鑑賞活動のよさに気付かせるために、話し合ったことを基に製作している子どもを賞賛し、作品の高まりを全体に実感させる。

5 本 時 (4 / 7)

(1) 目 標

- ア 中間鑑賞活動を通して、自分の作品の課題を解決する方法を考え、意欲的に表現に生かすことができる。
- イ 中間鑑賞活動を通して深めた見るポイントやイメージを基に、自分の思いに合わせて製作することができる。
- ウ 見るポイントやイメージを関係付けながら、自分や友達作品を鑑賞し、自分の作品の改善点に気づき、自分の表現へ生かすことができる。
- エ 自分の思いに合わせて製作できるように、カッターナイフや化学接着剤を適切に使い、丁寧に仕上げることができる。

(2) 本時の指導に当たって

自分の表現の課題を解決する方法を考え、新たな表現をしようという意欲を高めさせるために、中間鑑賞活動の場を設定する。鑑賞の場面では、より多くの意見を交流させていくためにグループで鑑賞を行うようにする。その中で、視点をもって話し合うことができるように、作品を見るポイントやイメージを基に鑑賞させる。そして、鑑賞活動で気付いたことを生かして、意欲的にこの後の表現に生かせるようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時 間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
動機付け	1 自分の作品の工夫点や課題を確認する。 【鑑賞前】 【見るポイント】 ・登場人物や周りのものの形や色、大きさ ・奥行き、重なり 【イメージ】 ・奥行きを表すために、近景には草を、中景には釣り人と魚を、遠景には海を配置しました。	(分) ↑ 5	○ 鑑賞活動への意欲を高めるために、参考作品を使った前時の鑑賞活動を振り返らせ、自分のつくりたい夢の世界を表現していく楽しさを味わえるようにする。
発想	2 学習のめあてについて話し合う。 中間鑑賞会をして、より自分の思いに合った作品をつくろう。	↓	○ 話し合いの視点をもたせるために、近景、中景、遠景に配置されたものの形や色、イメージについて話し合うことを確認する。
表現	3 中間鑑賞活動をし、自分の課題の解決方法を考える。 【鑑賞中】 【見るポイント】 ・登場人物や周りのものの形や色、大きさ・奥行き、重なり 【自分】 【イメージ】 ・奥行きを表すために、近景には草を、中景には釣り人と魚を、遠景には海を配置しました。 【友達】 【イメージ】 ・遠景に、沈没船を置いたらもっと海の感じが出るんじゃないかな。	↓ 1.5	○ 自分の表現の課題について伝えられるように、ノートに記録した課題を作品と照らし合わせながら説明できるようにする。
鑑賞	4 考えた解決方法を基に、ドリームボックスに表す。 【鑑賞後】 【見るポイント】 ・遠景の形 【イメージ】 ・少し古い感じの沈没船を遠景に置こう。そうすれば、深い海の感じが出るな。	↓ 2.0	○ 課題を解決する方法が思いつかない子どもには、グループの友達と話し合ったり、アドバイスをもらったりする場を設定する。
評価	5 課題を解決するために取り組んできたことや鑑賞会の感想を発表する。 【鑑賞のよさ】 ・友達からのアドバイスを基に、自分の作品の課題を解決する方法が分かりました。 【課題を解決する方法】 ・沈没船の配置を工夫して海の感じがもっと出てきました。さらに、沈没船にすむ魚も表していきたいです。	↓ 5	○ カッターナイフや化学接着剤の用具を適切に使うことができるように、掲示資料を用いて確認する。 ○ 鑑賞活動のよさと作品の高まりに気付かせるために、中間鑑賞会を通して考えた課題の解決方法と、作品にどのように表したかを紹介し合う場を設定する。 ○ 次時の表現への意欲を高めるために、課題を解決しようとした子どもを称賛する。